

① 品川正治さんへ

はじめまして。杉村元と申します。私は 2000 年代生まれで、同世代の多くは戦争なんていうのはテレビの中か教科書の中、もしくはゲームの中の出来事でしかないと、そう思いながら生きていくように感じます。

品川さんのお手紙を読ませていただきました。

率直に言うと違う世界に住んでいる人からの手紙という印象でした。それほどまでに、自分には理解が及ばない内容だったということだと思います。

品川さんが青春を過ごした時代と、私が今青春を過ごしている時代は違います。ただ、その中でも過去と今で同じような構造があることを強く感じました。

例えば、戦争は誰がやっているのかというお話。品川さんは、それは関東軍を始め軍の中核にいる戦争をすれば儲かる人々だと言っていました。そして、その戦争を仕掛ける人たちには戦争の悲惨さは分からないと。状況は違いますが現在の政治にも似たようなお金中心の構図が垣間見え、少しずつ戦時中のような形に変わっていったような気がしてなりません。

さらに現代は戦争中ではないにもかかわらず、品川さんのおっしゃっている『戦場』と同じように個性を働かせてはいけない、同調圧力のようなものを強く感じます。学校では先生に言われた通りにすれば良い。家では親に言われたようにすれば良い。そんな風潮があるように思ってしまうのです。

私はその風潮を嫌い、自分の個性を認めてくれる場所、自分を一人の人間として認めてくれる場所として隠岐島前高等学校に『流学』しました。そして、自分の理想に近い教育が北欧で行われていることを知り、クラウドファンディングでお金を集めさせていただき、デンマークへの教育視察にも行きました。

私がそこで見たのは幸せそうに生活する国民でした。まちを歩く人々の表情から日本と違っていたのです。その理由を知るためにデンマークの教育だけでなく、歴史・経済・政治についても調べました。そこから、教育と経済からアプローチすれば歴史の惨禍を繰り返すことのない、幸せとワクワクで溢れる世界を作れるのではないかと本気で感じたのです。

その後インドネシアに留学し、経済格差と教育格差のある社会を自分の目で観てきました。

そして、私は教育と経済から世界を変えていきたいと本気で思うようになりました。

私たちは今、品川さんと同じ世代を生きた人々が文字通り『身を賭して』築きあげた戦争の無い時代を生きています。しかし、私たちの世代の多くの方が、今が今であることのありがたみを理解できていないように感じます。そんな私と同世代の人々にこの品川さんの手紙を読んで欲しいと強く思いました。偉そうに書いていますが、きっと私もそのありがたみを理解できていない一人なのだと思います。品川さんが仙崎港で読んだ日本国憲法と私達が今ネット上で読む日本国憲法は、文字は同じでも受け取る重みが変わってきているように感じています。

モノの価値は時代が変われば変わっていきます。ただ、品川さんの想いや憲法九条といったものは変わらずにあって欲しいと思っています。そして『戦争を起こすのも、そうさせない努力ができるのも人間』であることは変わらぬことだと思います。

だからこそ、私は自分がこのために生きていると胸を張って言えるものと本気で向き合いながら、言うべきことを言い、やるべきことをやって生きていきたいと思っています。

きっとそうした生き方が私たちが生きる世界と、そのもっと先の未来に私たちの『想い』を繋いでいける唯一の道なのではないかと思うからです。

ぜひ、私たちが創る次の未来を見守っててください。

杉村 元(2001年生まれ、18歳、フリーランス・ウェブデザイナー)